

■「ワクワク健康通信」は弊社とお客様を結ぶ月刊ニュースレターです。「安くて良い家をつくる会」城東エリア主宰
興味深い話題や実用的な情報を満載し無料でお届けしています。
発行は毎月発行予定です。どうぞご覧ください。
ミッショ:絶対に後悔しない住まい創りをお手伝い

相続相談窓口センター

発行元: アイホームズ / (株)五十嵐繁勝工務店
発行人: 磯貝 暢子 五十嵐 和奏
〒131-0041 墨田区八広 5-25-4
電話 3613-2834 FAX 3613-6149
ホームページ <http://www.igarasi.com>
『アイホームズ』をクリック!!

お客様専用フリーダイヤル 0120-647-147

ワクワク健康通信

第194号 令和2年12月

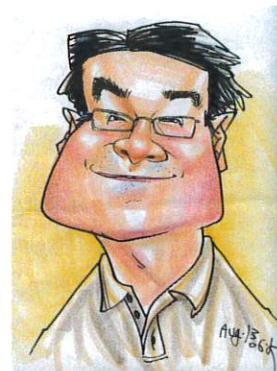
みなさま、こんにちは。

五十嵐です。

よく、コミュニケーション能力がある人は仕事ができると言われていますが、
コミュニケーション力とは、情報伝達するだけの手段ではありません。
仕事やプライベートにかかわらず、お互いに理解し合うための大切な能力です。

コミュニケーション術には、会話のスピードやリズム、声のトーン、呼吸を合わせることや、
表情やジェスチャーなどで息の合う状態を作り出す方法があります。

まずは相手に安心感を与え、信頼を寄せてもらうことが肝心です。
そのためには、優しい言葉遣いや振る舞いを意識してみましょう。
そういう私も、声は大きいし、優しい言葉遣いや振る舞いには程遠いのが現実です(笑)
最近は少し良くなってきたかなあ~と自分では思っているのですが…(*'▽')
気をついていることは、話す前に一呼吸置くようにすること。
そうすると、ゆったりとした雰囲気が醸し出せる気がします。



あなたの価値ある家づくり
土地探しから応援します!
スーパーアドバイザー
一級建築士/宅建取引士
代表/五十嵐 照勝

また、聞き上手になることも大切ですね。

話の腰を折らず(耳が痛いですが)、うなずきや相づちをうって共感する気持ちを示すようにします。
そうすれば相手も徐々に心を開いてくれるものです。

そしてもうひとつ。

相手の目を見て話すことは、お互いの距離を近づける効果があります。
あまりずっと見るのは相手に威圧感を与えてしまいますので、自然なアイコンタクトを心掛け、
難しい場合は、相手の鼻の辺りを見ながら会話してみましょう。

私たちは人との関わり合いの中で生きてています。

人間関係を築く土台であるコミュニケーション力を磨いて、連帯感を深めていきましょう。

2020年、今年は皆さんにとっても大変な一年だったかと思います。

誰にも想像できなかったような事が起きることが人生にはあります。

そして、この状況がすべて終わることはないということもわかってきてています。

ですが、こんな時だからこそ、皆で助け合い、協力し合うことで乗り越えることができる信じています。

今年も1年、ありがとうございました。

2021年が皆さんにとって幸せな1年になりますよう祈っております。

皆さん、良いお年をお迎えください。

こんにちは。長谷川です。

12月12日は、一万円札の肖像画でおなじみの

福沢諭吉の誕生日だそうです。

そこで今回は福沢諭吉が書いた「学問のすすめ」の中の

有名な一節についてお話しします。



福沢諭吉といえば「学問のすすめ」中でも

「天は人の上に人を作らず人の下に人を作らず」

という一節が有名ですが、この続きの言葉をご存じでしょうか？



そもそもこの一節が意味することは、

「人は産まれながらに平等である」ということではなく、

「人は産まれた時は平等なのに、どうして賢い人と愚かな人、裕福な人と貧しい人などの差が生まれるのだろうか」

という意味で使われ、福沢諭吉が考えた言葉でもなく、

アメリカのリンカーンの独立宣言を引用しているとも言われています。

では、福沢諭吉はこの「どうしてこのような差が生まれるのか」に対してどう答えたのか。

その答えが「勉強をしたか、そうでないかが、その差を生むのだ」と書いています。

だからこそこの一節は「学問のすすめ」という本に掲載されているのです。

12月は先生も走るくらい忙しいため「師走」と呼ばれます。

日々忙しくなると毎日の仕事や家事に追われて

何か新しい知識や物事を勉強する、身につけるといったことがおろそかになりがちですよね。

しかし、人として成長するためには学問が欠かせないと

100年以上も前に福沢諭吉は語っていたのです。

皆さんもお忙しい時かと思いますが、忘年会等でお札を見ることも多くなることでしょう。

その際に少しだけ福沢諭吉を思い出して、勉強し、知識を身につけ、

福沢諭吉と仲良くなり一万円札が増えるように年末あと少し頑張っていきましょう♪

皆さま、こんにちは。

磯貝です。

毎年12月21、22日ごろは二十四節気（にじゅうしせき）の冬至にあたります。

中国では冬至のことを「一陽來復」ともいいます。

そこで今回は、この言葉の意味についてお話しします。



冬至には、なんとなく

「かぼちゃを食べる日」

「ゆず風呂に入って風邪をひかないようにする日」

くらいにしか思っていませんでした。



整理収納アドバイザー
インテリアコーディネーター
カラーコーディネーター
不動産資産相談士
賃貸不動産経営管理士
住宅ローンアドバイザー
磯貝 暢子より

しかしあるとき、中国では冬至のことを「一陽來復」ともいうことを知る機会がありました。



「一陽來復」とは中国の易經（古代中国の書物）に出てくる言葉だそうです。

中国の昔の歴では10月は「陰の気」で覆われた月で、

11月になると「陽の気」が復活し始めるとされていました。

冬至を迎えると「陽の気」がどんどん強くなる、つまり明るい太陽が力を取り戻してくるわけです。

実際、冬至から昼の時間が少しづつ長くなってきます。

こういうことから、悪いことが続いた後に少しづつ幸運に向かっていく「一陽來復」という言葉が出たといいます。

悪いことや嫌なことがあると、ついいつそのことばかりを考えてしまうことがあると思います。

悪いことや嫌なことに自分の考えが集中していると、なんとなく普段なら気にならないことも

「また嫌なことがあった、悪いことが続くな」などと考えてしまいがちです。

そうなるとどんどん暗い気持ちになってしまい、「マイナス思考のスパイラル」に陥りやすいものだと思うのです。

そういうときに「一陽來復だから、もうそろそろいいことがあるな」と考えるようになると、

なんとなく気分も上がる気がします♪

溜まってしまった悪い気や運勢を一気に払い去る・捨ててしまうと考えれば

年末の大掃除なども共通することがあると感じます。

12月は「師走」と言われるくらい忙しい時期なので、精神的にも肉体的にも疲れがたまりやすい時期です。

そういうときに嫌な気分や悪いことが続くといいことはありません。

「一陽來復だから」と思って軽く身の回りを片付けるだけでも、

自分の気持ちに変化をつけられるなら簡単なものです。

掃除もできるし気分も変わる、一石二鳥の方法だなと思います♪



北海道は日本一あったかいどう！？



不動産事業部・Web 担当

五十嵐より

皆さん、こんにちは。
五十嵐です。

最近寒い日が続いていますね。
先日、外出した際に、手がかじかんでしました。

そこでふと、北海道はここよりももっと寒いのではないかと思い少し調べてみました。
すると、北海道は日本一暖かい場所として有名でした。

もちろん室外の話ではなく、室内の温度です。
じつは北海道はこたつの所持率が日本一低いんだそうです。意外ですよね。
それは、北海道が他の県よりも寒さ対策を万全にしているからだそうです。

まず一つ目に二重ガラスです。
通常のような一枚ガラスだと、半分近くの室内の熱が外へ逃げてしまいます。
そのため二重にして、寒さに負けないようにしています。

二つ目に、暖房が一日中稼働しているという点です。
暖房は一度切ると一気に部屋が冷え込みますよね。
なのでつけたままで効率よく使うんだそうです。
それもあり、室内の温度は平均 21.5°C で、日本で一番室内温度が高いんだそうです。

一方私はというと、最近は湯たんぽにはまってしまいました。
最近では、100円ショップなどでも安価なものが販売されていて、デザインも凝っていてかわいいです。
布団に入れても良いし、ソファに腰かけて足元に置くのも良し、万能に使えます。

体内から暖めるには、やっぱり生姜です。
少しつものおかずに加えるだけで、身体がポカポカします。
私は最近生姜ココアが好きです。意外と合うんですよ♪

生姜はダイエット効果があるので、少し減量にも期待しています(笑)

